

令和5年度 授業改善推進プラン 生活科

生活科の目標である「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する」ことを目指し、授業を創造していく。

課題

○知識・技能

- ・1年生と過ごす活動を通して、1年生に優しく接することができた自分の成長や2年生として役割が増えたことに気付くことができるが、自分の成長に気付く経験が少ない。
- ・生き物と触れ合う機会が少なく、どこに生き物がいるか等、気付いている児童が少ない。

○思考・判断・表現

- ・栽培活動を通して、それらが育つ場所、変化や成長の様子に関心をもっているが、よりよい成長を願って世話の仕方を考えたり、工夫したりすることはできていない。
- ・遊びの経験が少ないため、遊び方や約束を考えた遊び方ができない児童がいる。

○主体的に学習に取り組む態度

- ・他学年や友達との交流の場が少ないため、他の人との関わりから得られる達成感や喜びの気持ちを味わう機会が減少している。
- ・分かったことや気付いたことをいろいろな人に伝えたいという意欲が減少している。

授業改善策

1年生

- ・2年生と一緒に学校探検をしたり、遊び場に学年で出かけたり、新しい1年生（年長児）と交流したりする場を設け、遊び方やルールを考える経験をさせる。
- ・校舎内で虫探しができる場が限られているため、保護者へ連絡し、放課後虫探しをしてもらうようにする。また、生活科見学等で公園へ出かける機会を設け、自然と触れ合えるようにする。校庭の植物の観察をしたり、種から実際に植物を育てたりする体験を、継続的に行えるようにする。
- ・おもちゃ作り等の体験活動の際、できた作品を写真等で保存しておき、翌年の1年生が作品作りの参考にできるようにする。

2年生

- ・自分が育てた野菜の成長の様子や世話を振り返ることを通して、適切に世話をすることができた自分の成長に気付くことができるようにする。
- ・町で出会った人との関わりについて自分の生活と関連付けながら捉え、自分の町にいっそう関心をもつことができるようにする。
- ・学習を通して、驚きの場面や発見の場面を意図的に取り上げ、自覚させることで、誰かに伝えたいという気持ちを高められるようにする。